日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

ＮＯ．７８
平　成２６年

予告　平成 26 年度　全国大会・研究会発表会

発行　日本庭園学会（会長 鈴木誠）
〒 156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園科学科
ガーデンデザイン研究室内
TEl(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
http://wwwsoc.nii.ac.jp/asjg/

予告　平成 26 年度　全国大会

■平成 26 年度　日本庭園学会全国大会　開催内容・プログラム：第 1 日目

＜日　時＞：平成 26 年 6 月 21 日（土）

＜会　場＞：ホテルイタリア軒、新潟市旧齋藤家別邸、北方文化博物館新潟分館

09：30	受付開始（ホテルイタリア軒 3 階サンマルコ）
10：00 ～ 10：10	開会挨拶　鈴木　誠／日本庭園学会会長
10：10 ～ 10：20	大会プログラム説明　企画委員会全国大会運営担当
10：20 ～ 12：10	総会、日本庭園学会賞受賞式、受賞者講演
12：10 ～ 13：00	昼食休憩

◆研究発表会（2 会場に分かれて実施）

第 1 会場（旧齋藤家別邸）

13：00 ～ 13：25	旧齋藤氏別邸庭園の作庭を行った庭師・松本亀吉の事績 松本　恵樹
13：25 ～ 13：50	名勝無鄰庵庭園の恒常維持管理の実態と本質的意味 今江　秀史・阪上　富男・加藤　友規
13：50 ～ 14：15	都ホテル葵殿庭園における流れのき損の仕組みと導き出せる修理の本質 阪上　富男・加藤　友規・今江　秀史
14：15 ～ 14：40	米国・サラトガ市　箱根庭園修復支援 土沼　直亮
14：40 ～ 15：05	古代韓国庭園の水景観研究 洪　光杓
15：05 ～ 15：30	朝鮮時代中期の隠棲庭園瀟灑園の庭園構成と造営意図に関する考察 孫　旻愷
15：30 ～ 15：55	二子玉川『帰真園』造園過程の映像記録 佐藤　至門・鈴木　誠
15：55 ～ 16：20	作庭記に学ぶ事業戦略（2）その実践的展開 森　泰規

第２会場（北方文化博物館新潟分館）

13：00 ～ 13：25　「庭園と建築の歴史」構築の試み
　玉井　哲雄
13：25 ～ 13：50　龍安寺方丈庭園の作庭の意図について
　杉尾　伸太郎
13：50 ～ 14：15　桂の幾何学
　鈴木　蔀
14：15 ～ 14：40　史跡八王子城跡居館地区庭園遺構の構成と特色
　粟野　隆
14：40 ～ 15：05　長野市松代町に残る庭園群を成立させている水路網の近年の変化
　佐々木　邦博・長井　友紀
15：05 ～ 15：30　姉妹庭園関係締結とその意義
　土沼　隆雄
15：30 ～ 15：55　日本庭園作庭技術の継承に職藝学院が果たす役割
　渡邉　美保子

◆見学会
16：30 ～ 17：00　旧齋藤家別邸、旧清水常作別邸（北方文化博物館新潟分館）見学
17：00 ～ 18：00　終了後、引き続き、まち遺産の会による花街まち歩き（希望者）

◆情報交換会
18:30 ～ 20：00　情報交換交流会（レセプション）　ホテルイタリア軒５階春日

※総会、情報交換会、見学会への出席・参加は、６月 12 日（木）までに日本庭園学会事務局まで申し込み下さい。

◆大会参加費

大会初日

・学員　2,000 円　・非会員　3,000 円
・学生会員　1,000 円　・学生非会員　2,000 円
・情報交換会　5,000 円

大会２日目

・会員　3,000 円　・非会員　4,000 円
・お弁当代　1,000 円　・入館料３箇所　1,900 円
（学生割引なし）

◆大会参加申し込み

大会参加をご希望の方は、下記の問い合わせ先まで期限内に申し込み下さい。

＜問い合わせ先＞

〒 156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学　地域環境科学部　造園科学科
全国大会運営委員　粟野　隆
TEL：03-5477-2428　FAX：03-5477-2625
E-mail：t3awano@nodai.ac.jp

＜参加申し込み期限＞

平成 26 年６月８日（日）

会場地図

ホテルイタリア軒詳細地図

■平成 26 年度　日本庭園学会全国大会　開催内容・プログラム：第 2 日目

＜日　時＞：平成 26 年 6 月 22 日（日）

＜会　場＞：清水園、石泉荘庭園、伊藤家庭園（北方文化博物館庭園）、ホテルイタリア軒

◆現地見学会

08：15 ～ 08：30	見学会受付（ホテルイタリア軒ロビー集合）
08：30	イタリア軒出発（バスで移動）
09：30	清水園見学、徒歩にて石泉荘庭園に移動
11：00	石泉荘庭園出発
11：50	伊藤家庭園（北方文化博物館）見学
12：40	北方文化博物館出発（復路、バス内にて昼食（お弁当付））
13：30	ホテルイタリア軒到着　シンポジウム受付

◆シンポジウム

「自然主義風景式庭園の潮流と旧齋藤家別邸庭園　～存在の意味と意義を考える～」

大正 6（1917）年から約四年間を要し、2 代目松本幾次郎・亀吉が作庭した新潟市中心市街地にある旧齋藤家別邸庭園は、砂丘列を活かした雄大な庭園である。市民運動で「個の庭」から「公の庭」となった庭園は、季節感をベースに陰影のある奥山の風景や野辺の明るさを基調とした誰にでも分かる美しい自然が表現されている。

これらは近代数寄者らの影響を受けつつ 2 代目幾次郎・亀吉が生み出した自然主義的な作風と言える。このような作風はのちに「雑木の庭」の創始者･飯田十基や小形研三らに引き継がれていった。飯田十基（1890 ～ 1977）は、2 代目幾次郎や岩本勝五郎に師事し、2 代目幾次郎の下で渋沢栄一邸、阪谷芳郎邸、岩本の下では山縣有朋の邸宅である椿山荘、古希庵などを手掛けた。大正 7 年（1918）に独立した飯田は、武蔵野の雑木林を取り入れた数寄屋の庭を数多くつくり、自然主義風景式庭園の潮流を大きく発展させた。その弟子小形研三（1912 ～ 1988）は、昭和時代に「雑木の庭」を庶民の庭として定着させ、さらに雑木を公共造園に組み入れて全国的に普及させた。旧齋藤家別邸庭園に見られる自然主義風景式庭園の潮流は、現代の庭園スタイル「雑木の庭」を誕生させるなど先駆けとなった。旧齋藤家別邸を主題に、これら近代新潟の庭園事情とその潮流について多くの参加者と議論し見識を深めたい。さらに庭園を核としたまちづくりの視点においても参加者と議論を深めていきたい。

シンポジウムスケジュール

13：30 ～ 14：00	シンポジウム受付（イタリア軒３階サンマルコ）
14：00 ～ 14：05	開会挨拶・趣旨説明
14：05 ～ 14：40	基調講演：「ニハとしての都市」 中村　良夫（東京工業大学名誉教授）
14：40 ～ 14：55	話題提供 1：関連文化財群を活かした地域活性化 池邊　このみ（千葉大学教授）
14：55 ～ 15：10	話題提供 2：日本庭園とまちをつなぐ～行政参加のまちづくり 池田　博俊（新潟市都市政策部長）
15：10 ～ 15：25	話題提供 3：都市の品格とまちづくり～市民が日本庭園を手にしたことによる市民意識の変化～ 松山　雄二（新潟市旧齋藤家別邸館長）
15：25 ～ 15：40	話題提供 4：新潟市の西大畑・旭町界隈の歴史的建造物と庭園 大倉　宏（新潟まち遺産の会代表）
15：40 ～ 15：50	休　憩
15：50 ～ 16：30	パネルディスカッション 座長・土沼　隆雄（要松園コーポレーション代表取締役）＋ 講演者・話題提供者 閉会挨拶

◆講演者・パネリスト・座長　プロフィール

・中村　良夫（なかむら　よしお）氏

東京大学工学部卒。日本道路公団で実務に携わったのち、東京大学工学部助手。同講師、助教授等を経て昭和57年東京工業大学工学部教授。日本の景観工学分野を確立。現在、同大学名誉教授。工学博士。

・池邊　このみ（いけべ　このみ）氏

千葉大学園芸学部卒、同修士課程修了、同博士課程満期修了。学術博士。住信基礎研究所、ニッセイ基礎研究所等を経て、現在、千葉大学大学院教授。2004年より文化庁第三専門調査会名勝審議委員。

・池田　博俊（いけだ　ひろとし）氏

新潟市沼垂生まれ。昭和53年新潟市役所入庁。自らのキャッチコピーを「歌って踊れる公務員」とし､企画･立案・実行を信条とする。新潟の都市づくりに尽力し、現在は新潟市都市政策部長。

・松山　雄二（まつやま　ゆうじ）氏

奈良県生まれ。大阪府立大学農学部卒。昭和40年新潟県庁入庁。主として都市計画業務に従事。平成24年、新潟市旧齋藤家別邸館長に着任し、運営管理を推進。
花文化研究所『大地の庭』主宰。

・大倉　宏（おおくら　ひろし）氏

新潟県生まれ。新潟市美術館学芸員を経て、フリーの美術評論家となる。新潟の建築保存運動に多く関る。現在NPO法人新潟絵屋代表、砂丘館館長、新潟まち遺産の会代表。

・土沼　隆雄（どぬま　たかお）氏

新潟市生まれ。日本大学農獣医学部を卒業後、小形研三に師事し、東京庭苑にて修行。東京農業大学大学院、新潟大学大学院修了。博士（工学）。
株式会社要松園コーポレーション代表取締役。

■

■平成26年度全国大会の宿泊先の案内について

企画委員会（全国大会運営小委員会）では、平成26年度全国大会を新潟県新潟市で開催するにあたり、遠方からの参加者に対して、以下の宿泊先（五十音順）をご案内します。

予約、手続きにあたっては、日本庭園学会の全国大会で宿泊を希望とお伝えください。記載内容は、参考ですので、詳細は各宿泊所へ直接ご確認ください。

また、宿泊に関するすべての事項は、各自の責任の元でお願います。宿泊所に直接ご連絡頂くこととし、事務局への連絡はさけていただきますよう願います。

1. アパホテル 新潟古町
料金：6/20　素泊まり　一泊4,500円（税込）
　　6/21　素泊まり　一泊6,000円（税込）
朝食代：1,100～1,200円前後（目安）
連絡先：新潟県新潟市中央区東堀通6番町1037番1
TEL：(025) 229-2211　FAX：(025) 229-2212
E-mail：ahnifuru@apa.co.jp
URL ：apahotel.com
担当：支配人 真子　祐吉

2. ホテルイタリア軒
料金：6/20　素泊まり　一泊5,400円
　　（税金・サービス料込）
　　6/21　素泊まり　一泊7,000円
　　（税金・サービス料込）
連絡先：新潟市中央区西堀通七番町1574
TEL:025-224-5111　FAX:025-224-7679
担当：五十嵐　慶次郎

3. ホテルオークラ新潟
料金：6/20-22　素泊まり　一泊8,000円
　　（税金・サービス料込）
　　朝食付き　一泊9,500円
　　（税金・サービス料込）
連絡先：新潟市中央区川端町6-53
TEL:0120-100-120（宿泊予約専用フリーダイヤル）
　　025-224-6111
FAX:025-224-7076
E-mail:info@okura-niigata.com
担当：セールス　佐久間

■

■平成 26 年度　日本庭園学会全国大会研究発表の概要

1. 旧齋藤氏別邸庭園の作庭を行った庭師・松本亀吉の事績

松本　恵樹（春秋設計工房）

概　要：旧齋藤氏別邸庭園の作庭は、明治時代から昭和時代にかけて東京を中心に活躍した庭師の二代松本幾次郎とその弟の松本亀吉が行った。中心になって作庭を行ったのは松本亀吉である。松本亀吉（1877-1925）は、初代松本幾次郎の 3 男として明治 10 年（1877）東京府下谷区下根岸（明治 11 年以降の住居表示）生れ、大正元年（1912）35 歳の時に分家、一家を創立し庭作りに従事した。大正 14 年（1925）48 歳にて他界した。現時点で判明している代表作品には、いずれも大正期の完成で中村歌右衛門邸、高橋箒庵の白紙庵と伽藍洞一木庵、渋谷の津村重舎邸、水戸徳川家向島屋敷茶庭、新潟の旧齋藤家別邸庭園（2 代松本幾次郎と共働）等がある。本研究では松本亀吉の事績を整理し作品を紹介して考察を行う。

2. 名勝無鄰庵庭園の恒常維持管理の実態と本質的意味

今江　秀史（京都市文化財保護課）・阪上　富男・加藤友規（植彌加藤造園）

概　要：山県有朋を施主とし、七代目小川治兵衛の最初期の作である名勝無鄰庵庭園は、行政（京都市）が所管している。一般的に行政が業者を選定する場合は、指名競争入札を行うが、同庭園に関しては提案型の入札が採用され、中長期的目標にしたがって恒常維持管理が行われている。こうした特殊な保存管理のあり方の実態を明るみに出し、その本質的意味について検証する。

3. 都ホテル葵殿庭園における流れのき損の仕組みと導き出せる修理の本質

阪上　富男・加藤　友規（植彌加藤造園）・今江　秀史（京都市文化財保護課）

概　要：ウェスティン都ホテル京都が所有する京都市登録名勝「都ホテル葵殿庭園及び佳水園庭園」の葵殿庭園は、昭和 8 年（1933）七代目小川治兵衛によって作庭された。作庭から 80 年が経過した平成 25 年度（2013）に施した流れ修理から、流れがき損する仕組みと原因を明らかにする。また、そこから導き出せる修理の本質として、き損箇所を修理するのみではなく、庭園が担っている役割を把握し、その機能を修理することの重要性について論述する。

4. 米国・サラトガ市　箱根庭園修復支援

土沼　直亮（要松園コーポレーション）

概　要：2014 年 2 月に行った米国サラトガ市にある箱根庭園（新潟の北方文化博物館と姉妹庭園関係）修復支援について報告する。修復は小形研三氏に師事した造園家が構成する小形会を中心に、米国内やカナダからボランティア有志総勢 13 名が集まった。施主の意向により以前あった樹木や石を生かし、新たに龍安寺風の石庭を作庭すると共に、既存のクロマツやモミジなどを植栽した動きのある庭を造園。この他庭門、延段、石階段などの設置も行った。

5. 古代韓国庭園の水景観研究

洪　光杓（東国大学校造景学科）

概　要：古代韓国の庭園は残されているその遺構が少なくその実体を把握するのは容易ではない。このような理由から少し前までは雁鴨池（アナプチ）だけに依存して韓国の古代庭園に対する実体を把握する程度に止まったが、近年に入り慶州九黄洞苑池と龍江洞苑池が発掘されてからはより具体的な作庭技法が確認できるようになった。雁鴨池を始め、九黄洞苑池と龍江洞苑池は新羅が三国を統一した年後に作られたものだと推定されており、その当時、韓国庭園の作庭技法を理解するのに決定的な資料を提供している。特に、この三つの庭園は苑池を中心にした庭園であること、苑池の造成原理が似ていることが発見され、その当時庭園の様式的特徴を把握することができる点でその意味を持つ。雁鴨池の場合と同じように新しく発掘調査された九黄洞苑池と龍江洞苑池は護岸線がでこぼこした曲池で造成されており、真ん中に島を置き、護岸周辺には景石を布置する等同じ共通点を持つ。さらに、護岸石築と底の処理、入水と出水のようなディテールな面でもある程度の類似性が見られて、その当時の作庭術を理解するのに決定的な助けになる。韓国の古代庭園に対する理解は日本庭園との比較を可能にし、韓国と日本の庭園造成に関する謎を解く端緒を提供する。特に、雁鴨池、九黄洞苑池と龍江洞苑池のように苑池を中心にする庭園の場合には、このような可能性をより明らかにしてくれる。本研究では雁鴨池、九黄洞苑池、そして龍江洞苑池の構成要素と作庭技法を比較研究

して韓国の古代庭園の作庭術を明らかにするのを目的にし、その結果を基にして当時日本の庭園とも比較して可能な範囲内で古代韓国と日本の庭園を理解しようと考える。

6. 朝鮮時代中期の隠棲庭園瀟灑園の庭園構成と造営意図に関する考察

孫　旻愷（千葉大学大学院園芸学研究科）

概　要：瀟灑園は韓国全羅南道潭陽郡南面芝谷里に位置する。園主は朝鮮時代の儒学者・隠棲者梁山甫（1503-1557）である。梁山甫は中宗 14 年（1519）に科挙に合格したが取り消された。同年､師匠の趙光祖が「己卯士禍」に巻き込まれ命を落とした。それに衝撃を受け、梁山甫は故郷に戻り、瀟灑園を造営し、隠棲した。梁山甫死後、瀟灑園が破壊、改造され、オリジナルの構成が現況と異なる。本研究では現地調査元に、文献、絵図資料とともに梁山甫が死去までの間の瀟灑園の庭園構成及び園主の造営意図を推測した。

7. 二子玉川『帰真園』造園過程の映像記録

佐藤　至門・鈴木　誠（東京農業大学地域環境科学部）

概　要：世田谷区立二子玉川公園（平成 25 年 4 月 14 日開園）内に設けられた日本庭園「帰真園」。東京農業大学ガーデンデザイン研究室では世田谷区との協定に基づき、その着工から竣工・開園までの様子を記録する活動を行った。その記録写真・動画を 1 本の映像資料として編集したものが『二子玉川「帰真園」造園過程の映像記録』である。同作品の上映、および、その制作に関する概要を発表する。

8. 作庭記に学ぶ事業戦略（2）その実践的展開

森　泰規（博報堂コンサルティング局）

概　要：日本庭園を参照すると、事業を強くするためのエッセンスが見えてくるという筆者の仮説について、これまでに寄せられた関心や質疑、批判を元により実践的な例を用いて具体的に紹介する。

9.『庭園と建築の歴史』構築の試み

玉井　哲雄

概　要：庭園は、建築と密接な関係にある。併存する庭園と建築の多くは、一体の構想の下に作られているのであり、一方のみを論じることはできない。特に歴史という観点に立つ時、庭園、建築それぞれの変遷過程だけではなく、両者の関係のあり方、そしてその変遷過程こそが、庭園と建築の歴史的特質をあきらかにできる有力な手がかりとなると考える。別々に論じられることの多い庭園史、そして建築史であるが、両者を統一的に一体として論じるための基礎的な考察を試みたい。

10. 龍安寺方丈庭園の作庭の意図について

杉尾　伸太郎（プレック研究所）

概　要：龍安寺方丈庭園の作庭は中国の五台山を現したものと既に発表したところであるが、今回は方丈からの見えがかり、眺望、借景、龍安寺の位置関係等から作庭の意図を探りつつ、作庭者等にも触れてみたい。

11. 桂の幾何学

鈴木　蔀（鈴木蔀建築事務所）

概　要：桂離宮庭園は回遊式庭園の嚆矢として、また作庭技法の上からも高く評価されているが、縄張りの基本となる構成原理についての研究は充分とは言えない。本論では鳥の目で見た構成要素の特徴から幾何学的「基本図形」を導き出し、それを用いて茶亭等の位置、方向を決定し、その有効性を吟味する。またその図形の生まれる背景も考察する。さらに京の守護神、比叡、愛宕両山と桂の里を結ぶ三角形は不思議な性質を持っており、秘められたロマンを探る。

12. 史跡八王子城跡居館地区庭園遺構の構成と特色

栗野　隆（東京農業大学地域環境科学部）

概　要：平成 25 年度に実施された史跡八王子城跡居館地区の発掘調査では、推定御主殿と推定会所によってＬ字形に囲繞された場所に池泉や護岸石組が検出された。本稿では、まず遺構の周辺環境も含め地割の全体像を概観し、細部の意匠・構造について特色を報告しようと思う。本庭園遺構については、成果は未整理の点が少なくないが、保存状態も良好であり、戦国大名や有力国人たちの造営した居館庭園の全体像を理解するうえで極めて重要な事例となるであろう。

13. 長野市松代町に残る庭園群を成立させている水路網の近年の変化

佐々木　邦博・長井　友紀（信州大学農学部）

概　要：長野市松代町には江戸時代以来の水路網と 100

カ所あまりの池庭が残されている。町内を巡る水路網が池庭に水を供給している。その特徴は泉水路と呼ばれている特別な水路にある。庭の池に入った水が水路に戻らず、隣家の池に入り、そしてさらに隣家の池に入っていく水路である。近年、水量が減少したと言われ、水路に水がなくなるとともに池庭がなくなっている。今日までの減少と変化を明らかにし、報告する。

14. 姉妹庭園関係締結とその意義

土沼　隆雄（要松園コーポレーション）

概　要：名勝庭園を有する北方文化博物館（新潟市）はハコネ庭園（米国サラトガ市）と相互理解を促進することなどを目的に、世界で初めて姉妹庭園関係を締結した。今後、他の公開日本庭園でも、このような国際間、もしくは国内における姉妹庭園関係が締結、活発化され、一般市民に対する庭園理解に努め、組織や制度、管理運営上の課題などを共有する広域的ネットワーク化が期待される。

15. 日本庭園作庭技術の継承に職藝学院が果たす役割

渡邉　美保子（職藝学院環境職藝科）

概　要：職藝学院は日本庭園と木造軸組構法の伝統技術を未来に継承するため 1995 年に設立された。庭づくりがわかる大工、家づくりがわかる庭師を育てるユニークな教育を実践する専門学校である。技術修得は実物教材に重点をおき、富山県内の個人庭園・公共庭園作庭、神社仏閣等の庭園修復工事を教材として提供を受け、プロの職人が指導を行なう。地域社会に根ざした伝統的庭園技能の継承について、作庭事例を中心に報告する。

■

史跡小田原城跡で中世庭園遺構を発掘！

史跡小田原城跡　中世庭園遺構

平成25年度に行われた庭園に関する発掘調査で、最も重要なものは何かと聞かれたら、第一にこれを取り上げたい。神奈川県小田原市にある史跡小田原城跡で、中世庭園遺構が発掘された。発掘された場所は、小田原城の二の丸と本丸の間に位置する御用米曲輪で、江戸時代は江戸幕府直轄の米蔵が立ち並んでいた場所である。平成25年度の調査は、昭和57年度の第1次調査から数えて第5次調査となる。この場所は、上層である江戸時代の遺構調査において6棟の蔵の遺構が確認されている。

中世（戦国時代）の遺構は、これらの下層から確認されたもので、上層遺構を保護しながらの断片的な調査ではあるが、礎石建物跡や庭園遺構が出土した。庭園遺構の中でも注目されるのは、截石を貼り付けた護岸をもつ園池遺構で、曲輪の南東端に位置する。この園池は、戦国時代の地表面を130～200㎝掘り下げて造ったもので、外周の長さ45ｍ以上と規模が大きい。計画した園池の形状に地山を掘り下げ、護岸の部分は30°程度の傾斜として、そこに截石を貼り付けている。護岸に使用された截石は、ほぼすべてが五輪塔等の石塔の一部で、未使用のものや制作途中のものが含まれる。おそらくは工房に保管していた部品や未成品をここに持ち込んで、現場で貼り付けながら、一部を打ち欠いて組み上げていったものであろう。傾斜角度をみると、栃木県足利市の史跡樺崎寺跡における室町期の洲浜に近く、この截石も洲浜のつもりで貼り付けたものであろう。

この園池は、少し埋まった段階で堆積土の上の緩斜面に砂利を敷き、砂利敷きの洲浜として改修している。導水は平場から流れ込む水路が主であるが、池底に深掘りが認められ、湧水も利用したものと考えられる。排水路は、南東側から護岸と同じ石敷きのものが確認されている。

この園池の他、さらに北西の平場からは中央に井戸を

もち、底部に截石を貼った浅い園池遺構も確認されている。また、周囲に截石敷きを施した井戸も確認されている。

おわりに、今回の園池遺構発見の意義をあげてみたい。一点目は、戦国時代における小田原北条氏も城館内に園池をもつ庭園があったことが確認されたことである。近年、関東における戦国武将の居館で園池をもつ多様な庭園の発見が相次いでいる。栃木県矢板市御前原城跡、茨城県つくば市小田城跡、桜川市真壁城跡、埼玉県寄居町鉢形城跡である。そして東京都八王子市八王子城跡の御主殿跡からも、今まで枯山水庭園と考えられていた石組の下から園池が確認された。戦国期城館において園池を伴う庭園跡はあるのがあたりまえで、これからは、その配置や構造、建物との関係を解明していくことが求められよう。

二点目は戦国時代の小田原城にとってこの場所がどういう意味の場所であったのか、さらに問題となってきたということである。これだけの庭園遺構が城郭内のどの曲輪にもあったとは考えにくい。とすると、この曲輪は、小田原城の中でも重要な場所であったということである。戦国時代における小田原城の解明は始まったばかりであり、今後この曲輪がどのように位置づけられるのか、注目されよう。

三点目は、小田原北条氏の高い文化と高度な石材加工技術を知ることができたことである。庭園に截石を多用していること、あるいは截石護岸の洲浜をもつ大規模な園池など、戦国時代末期、坂東で最も有力な守護大名であった北条氏ならではのものと考えられる。京都においてもこの時期の庭園遺構は十分に確認されておらず、当時の庭園文化を考える上でも重要な発見であろう。

小田原城跡における中世庭園遺構の調査は、日本庭園史を考える上でも極めて重要な調査であり、現地説明会等での見学をお勧めしたい。

参考文献

・「御用米曲輪の整備に伴う発掘調査　現地説明会資料」
平成 25 年 10 月 19 日
・大澤　伸啓
「中世武士の館における庭園の多様性」『栃木県考古学会誌』第 30 集
平成 21 年

■

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願いします。

【協力者】

北森　さやか・小山　由美（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会
今江　秀史・加藤　友規
〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
京都造形芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局　FAX(075)791-9342